サポートツール全国キャラバン2014「教材教具研修会」in 高知

発達障害がある子ども一人ひとりのニーズに応じた
指導・支援の具体的方法

研修会報告書

2015 年 1 月 11 日

高知市文化プラザかるぽーと　中央公民館　大講義室

主催：特定非営利活動法人　全国LD親の会

共催：高知LD親の会　sky

【研修会開催趣旨】

平成２６年、日本は「障害者の権利に関する条約」に批准した。批准に向けて様々な取組みが進められてきたが、平成２３年７月には障害者基本法改正案が可決され、平成２４年７月には「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進」の中で「障害のある子どもと無い子どもが、できるだけ同じ場で共に学ぶことを目指すべきである」という提言がなされた。「共生社会」とは、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会であり、その形成に向けたインクルーシブ教育システム構築が求められている。

平成１９年４月の学校教育法改正以降、特別支援教育の推進が図られてきたが、こういった流れを踏まえ、全国ＬＤ親の会では、平成１８年度から２年間にわたり、文部科学省から「障害のある子どもへの対応におけるＮＰＯ等を活用した実践研究事業」の委嘱をうけ、「ＬＤ、ＡＤＨＤ、高機能自閉症等の発達障害向けの教材・教具の実証研究」を日本発達障害ネットワーク（ＪＤＤネット）の加盟団体等と共同で行い、学校や療育機関での先行事例・有効事例、家庭での工夫等による教材・教具のアイデア、事例を収集して、ＬＤ、ＡＤＨＤ、高機能自閉症等の発達障害のある子どもの困難やニーズに合わせた有効なサポートツール（教材・教具など）を体系的に整理し、発達障害児のためのサポートツール・データベース（教材・教具ＤＢ）

(http://www.jpald.net/research/index.html)

を作成した。

さらに、２００９年度からは、日本財団の助成を受けて、発達障害児のためのサポートツール・データベース（教材・教具ＤＢ）を質、量とも充実させ、普及させるための事業に取り組み、今年度からは、共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築を目指して、通常の学級における特別支援教育を進めるために、通級指導教室でのノウハウの汎用化・ユニバーサルデザイン化・様々な障害の状態に応じた支援機器の充実を図った「発達障害児のためのサポートツールの個別の使い方とユニバーサルデザイン化」事業に取り組んでいる。

ユニバーサルデザイン化には、一人一人のニーズを把握するパーソナル化の視点が不可欠であり、全国ＬＤ親の会加盟の開催地域の親の会とともに、特別支援教育士資格認定協会Ｓ．Ｅ．Ｎ．Ｓの会各支部会・各都道府県作業療法士会と連携を図って研修会を開催している。今年度は、富山市、高知市、大分市で開催する。

高知市文化プラザかるぽーと

【研修会開催要項】

日　時：２０１５年1月１１日（日）１０：００～１６：３０
会　場：高知市文化プラザかるぽーと　中央公民館　１１階　大講義室
　　高知市九反田２－１

プログラム

１、講演１　「発達障害のある子どもの特性に沿ったサポートと教材の活用」
　　～使い方で変わる教材の有効性～
　講師　山田　充　氏
　（特別支援教育士スーパーバイザー・自閉症スペクトラム支援士アドバンス・
　堺市立日置荘小学校通級指導教室教諭・堺市特別支援教育専門家チーム・
　堺市特別支援教育推進リーダー育成研修推進委員）

２、講演２　「発達障害のある子どもの感覚運動機能に応じた教材教具の工夫」
　講師　嶋谷　和之　氏
　（日本感覚統合学会インストラクター・大阪市更生療育センター作業療法士・
　大阪府作業療法士会　発達部門副代表）

３、ワークショップ
　「子どものテスト等や、ビデオによる事例検討の手法ワーク」

主 催：特定非営利活動法人全国ＬＤ親の会

共 催：高知ＬＤ親の会　ｓｋｙ

後 援：高知県、高知県教育委員会、高知市教育委員会、高知県市町村教育委員会連合会、一般社団法人日本ＬＤ学会、一般社団法人日本作業療法士協会、一般社団法人高知県作業療法士会、日本感覚統合学会、高知さんさんテレビ株式会社、高知新聞社

事務局 ： 〒151-0053　東京都渋谷区代々木 2-26-5 バロール代々木 415
TEL/FAX ： 03-6276-8985　　E-MAIL ： jimukyoku@jpald.net
URL ： http://www.jpald.net/

講演１　報告

「発達障害のある子どもの特性に沿ったサポートと教材の活用
～使い方で変わる教材の有効性～」

報告者：山田　充（特別支援教育士スーパーバイザー）

講演は、まず原因を考えない支援は、子どもにやってもやっても出来ない経験をさせている、その結果子どものモチベーションを下げているという説明から始まった。ここで、特別支援教育には、アセスメントという原因を考えるステップが必要であることを協調した。感想の中で一番多かったのは、「アセスメントの大切さがよくわかった。」という内容だった。最初にこの観点の話をさせてもらったので、後半の事例の話をアセスメントの時点で聞いてもらえたのがよかったと考えられる。

さらに具体的な子どもの姿とその子どものもつトラブルを紹介しながら、その要因が思いもよらない原因で起こっていることを説明していった。そのことに対応しないと二次障害となる。学校現場などで問題行動を起こす子どもたちの多くは、学習困難への支援がしてもらえず、そこから問題行動に発展する二次障害であることが多いということを強調しながら話を進めた。

学習困難の要因を探る体験のために、子どもの算数のテスト問題などを提示し、誤りの要因をきちんと考えていき、本人の特性と結びつけることで、学習支援の具体的で効果的な方法を見つけることが出来ることを紹介した。分析の方法についても、実例をだしながら紹介した。

このように子どもの様子を紹介する事例ベースで講演をすすめ、その事例の子どもへの対応を紹介する中で実際に使用している教材（データベースで紹介されている物も含めて）のコンセプトを紹介するとともに具体的な使用方法について説明していった。

次に紹介する発達障害への支援方法を障害特性との関連で考える手法について説明した。認知への支援、集中や注意のコントロールへの支援などその特性の理解と特性に沿った道筋の支援が必要であることを事例を通して理解出来るように紹介した。

１時間半を越える講演であったが、会場いっぱいの参加者はとても熱心に聞いて下さり、たくさんの有り難い感想を頂いた。感想の中で特徴的なことは、もっと多くの人に知って欲しいという感想が多かったこと、もっと勉強したいと思ったという意欲的な感想も多く見られた。子どもの様子を思い浮かべながら聞いていただく方が多数おられたことと、子どもの様子や行動を分析することの重要さを認識した、教材もたくさん知ることが出来た、また今後実践してみたいというような積極的な感想を多数いただいた。

講演２　報告

「発達障害のある子どもの感覚運動機能に応じた教材教具の工夫」

報告者：嶋谷　和之
（日本感覚統合学会テストメカニクスインストラクター・
大阪府作業療法士会　発達部門副代表）

ねらい

普段私たちは、何気なく姿勢を保ち、運動を行い、手を使って物や道具を扱っているが、これらはほとんど意識されることなく自動的に行っていることが多い。そのため、感覚運動機能を背景的な要因とする子どもの困難に気づきにくい、分析しにくいという場合も少なくない。そこで、講演のねらいは以下の４点とした。

・普段何気なく行っている活動を意識化し子どもの困難と重ね合わせることで、子どもを理解し手立てにつなげるきっかけとする。
・方法論よりも、理解と支援につながる視点や発想を伝える。
・すぐにできる物や道具の工夫で、子どもの活動がより行いやすくなることを知っていただく。
・後で行う事例分析のワークにつながるように、感覚運動機能の観点からの子どもの見方を紹介する。

内容

①作業療法士の視点について説明を行った。
②感覚運動機能について、以下の２点についてより具体的に説明した。
・安定した姿勢が保証されて、効率よく手を使い物や道具を操作できることを説明した。
・感覚情報は食物と同じように、人間が生きていく上で必要な栄養素であると捉えることも可能である。子どもに必要な感覚情報を、日常生活の中に溶け込むように提供していくという視点を説明した。
③物や道具などの周囲の環境を調整する際に、環境を子どもにどう合わせるかを考えていくために必要となる視点を説明した。
④一般的に当たり前と思われる様々な日常生活活動は無意識にしていることが非常に多いが、その日常生活活動に困難がある子どもは意識的にすることになり、さらなる努力や苦労を強いられる場合がある。良かれと思った援助が二重三重の課題になる可能性があり、細かく子どもの状況を把握する必要性を説明した。
⑤大阪府作業療法士会パンフレット「発達障がいのある児童・生徒への学習および学校生活援助」から、「よくある相談」のいくつかを紹介し、困難の要因と手立ての例を説明した。
紹介した「よくある相談」は、以下のとおりである。
・姿勢の保持が難しい
・筆圧が強すぎる、弱すぎる
・食べこぼしが多い（箸がうまく使えない）
・はさみ、定規、コンパスがうまく使えない
・なわとびができない
⑥事例を通して子どもの困難、背景的な要因、手立てを具体的に説明した。

・姿勢の保持に困難のある事例。低緊張に加えて、自分の身体の状態を把握しづらいことが背景的な要因。滑り止めシートを座面に敷くと臀部の前ずれは改善するも、左右への崩れに対しては改善が認めにくくハートリーフクッションが必要と考えられた。
・椅子を動かすことが多く、座面の縁で座りたがる事例。圧や運動感覚の欲求が高いことが背景的な要因。感覚の欲求を満たすことができるよう座面にクッションを付けると安定して座ることができ、授業をより集中して受けることができた。
・鉛筆がうまく持てず書き続けると疲れる事例。手指の巧緻性の未熟さと触覚の分かりにくさのために、三指では細い鉛筆をしっかり持つことができず、代償的に四指で力を入れて持っていることが背景的な要因。三角の鉛筆グリップを付けることで、鉛筆との接点が増え、鉛筆を捉えやすくなった結果、三指で鉛筆を持つことが可能となり疲れずに書くことが可能となった。
・指先で箸を操作できずクロス箸になり、何度もつまみ直しをしている事例。手指の巧緻性の未熟さが背景的な要因。子どもに応じた補助具をつけることで、指先で箸を操作してつまむことができるようになった。
・片づけが困難な事例について、空間関係と順序立ての苦手さという２つの主たる原因と援助として環境調整を行ったことを説明した。

⑦子どもと活動をつなぐために活動を分析する必要性があるが、いくつかの活動を分析し、説明した。

⑧子どもが努力して物や道具の操作を行っている場合、出やすい運動のサインを説明した。このような反応を捉えることで、子どもの努力を認めることができること、過剰な負担をかけることがないような工夫や細かな段階付けにつながっていくことを説明した。

⑨教材教具を展示した。ちょっとした工夫で活動がより行いやすくなることを体験していただいた。

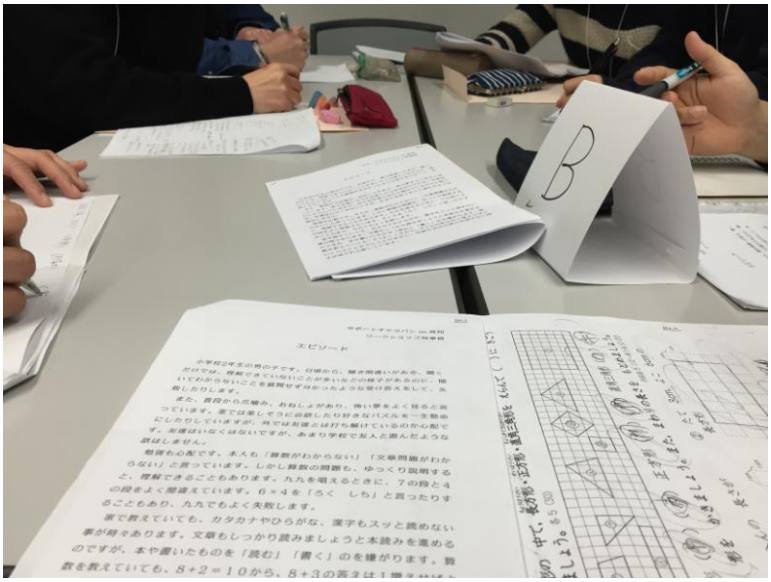
【展示物】
・ハートリーフクッション
・滑り止めシート
・滑り止めを貼った定規、分度器
・市販の滑り止め加工された定規、分度器
・紙の下に滑り止めシートを敷くことで、コンパスが操作しやすくなる工夫例
・市販の操作しやすいコンパス
・滑り止め加工した三角鉛筆
・太い三角鉛筆、色鉛筆
・各種の鉛筆グリップ
・消えやすい消しゴム
・工夫を施した箸
・バネ付きのはさみ
・工夫したとび縄
・大阪府作業療法士会パンフレット「発達障がいのある児童・生徒への学習および学校生活援助」
・感覚統合関連の書籍

参加していただいた方のアンケートを見ると、感覚運動の観点からの支援の必要性に気づかれたり、再認識されたりしたように思う。また、無意識を意識化していくことの重要性、「なぜ」という視点で掘り下げて困難の背景を検討していくことの重要性、感覚運動の特性に応じた環境調整の重要性など、講演内容の主要なポイントがアンケートに書かれてあり、ご理解をいただけたのではないかと思う。子どもの理解と支援にあたっては、いろいろな視点で多角的に捉える必要があり、また考え続けることが必要と考える。作業療法の視点が子どもの理解と支援に役立つことができれば幸いである。

ワークショップ　報告書

Ⅰ．ワークショッププログラム
１、ワークショップ進行説明（ワーク用テストプリント配布）
２、事例となる対象児ビデオ上映
　家庭での様子（食事の様子、宿題に取り組む様子）
３、グループ毎に子どもの特徴、抱えている問題点、支援方法を討議
４、各グループの発表
５、山田先生、嶋谷先生より総評
６、質疑応答

Ⅱ．各グループの発表内容
１、特徴及び問題点や気になるところ
・聞く力の困難さがある。
・聞き逃すことが多いことから、注意集中が困難。
・行動面が、落ち着きがなく、せかせかしている。
・箸の使い方が、クロス箸になっている。
・手首がかたいような感じがある。
・姿勢が保持しづらい。
・筆圧が強すぎる。
・おねしょや爪かみなど、心理的に不安が強いのではないか？
・右手と左手が協調して動いていない。
・数のイメージができていない。
・不器用
２、支援方法
・聞かせるときに、まず注意喚起をする。
・クロス箸や筆圧の強すぎなどは、本児に応じた教具を使用する。
・学習面に自信がないのは、出来たことを誉めて、達成感を与えたり、本児ができる到達点の設定を見直す。
・自信がないので、モチベーションを上げるような教材を使用したり、誉めたりする。
・姿勢の保持がしやすいように、足台を使用したり、座布団などで調節する。
・注意が持続しやすいように、静かな環境を作ったり、注意を促す。
・「見て見て」と承認を求めているので、認めてあげる。

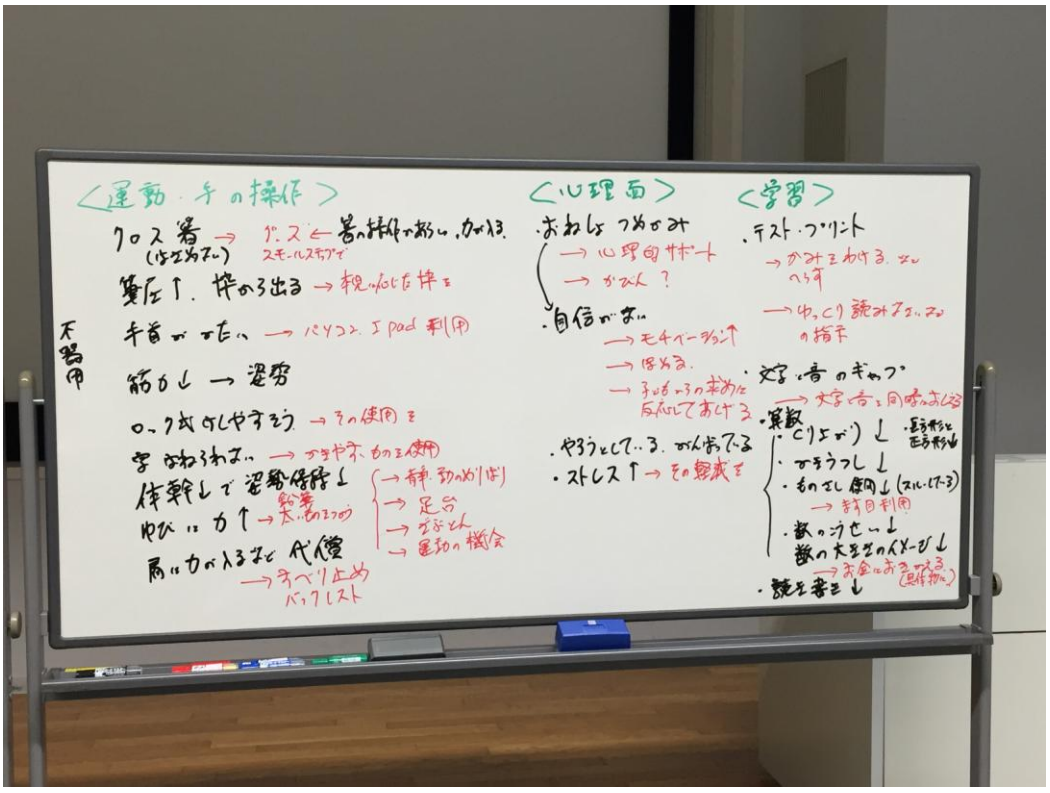


Ⅲ．先生方の総評
１、嶋谷先生より
・エピソードのところから、聞き間違えを考えた時に、微妙な音の違いが捉えられていない（聴覚入力あいまい）。

・ＶＴＲより、お汁椀に肘があったのに無反応だった。（触覚入力もあいまい）。
　→全体的に入力があいまいで、苦手である。
・努力しているが、思いつくと、すぐに行動するところがある。動きが雑（柔らかさがない）。
　→吟味、振り返りが苦手。
・肘をずっとついていたり、お茶碗を上から持ったりと、手指動作不器用。姿勢支持が困難。
　→安定性が苦手で苦労している。

　※　矢印（→）は状態から考えられる弱さ

２、山田先生より
・皆さんから出てきたことは、結構、的を得たものもあり、少し考えすぎかなというところもあるが、姿勢、力のコントロール、聴知覚の問題はある。例えば、（プリントで）筆算でちゃんと答えが出ているのに、答えを写すときに間違えているのは、空間関係（位置関係）のあいまいさ、数のあいまいさがあると考えられる。漢字も何となく覚えている。
・一つ一つ見ていくと、それぞれ困難さがある。しかし、支援計画を立てる時に、この問題をひとつひとつクリアしていけばうまくいくのかといえば、そうではなく、なかなか全体として「前進していった！」と感じにくいだろう。子ども自身が一番達成感を感じにくいと思う。
・トータルとして、何もかもがあいまいで、全体を把握しながら現在の状況を判断することが苦手。おそらく、衝動的に反応することが影響していることも考えられる。
・ベースとして個々の学習の困難さの対策（それぞれのあいまいさに対する支援）をしていきながら、順序立ててあげるとか、手順通りやっていくように、衝動性を抑制しながらフィードバックしてあげるという、二重構造的な支援が必要。手順を教えてあげることも大事。
・やったことに注意せずに、やったことに対して「どうするんやったっけ？」「エッ？」と反応し、ちょっと思い出させる。振り返り、吟味することを学習できるように、反復して支援していくこと。（例えば、テスト用紙の１番上に問題の番号を全部書き、見直しが出来たら、その番号に丸をするなど。）
・「よく考えたね」などと、声掛けをして、達成感、自信を持たせるよう心掛ける。



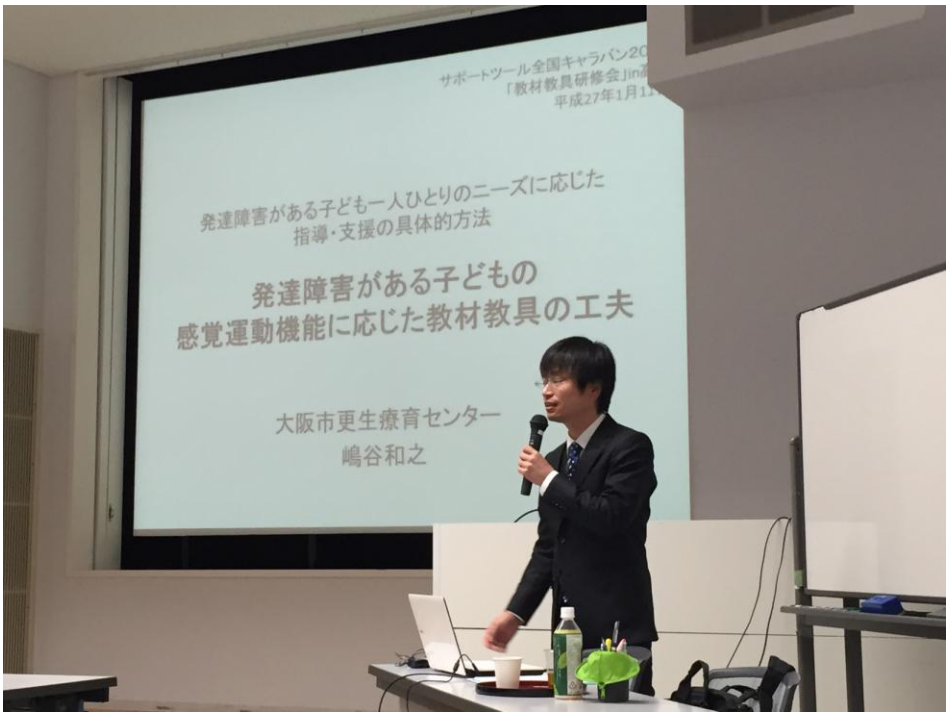
Ⅳ．質疑応答

Q）学習障害児の支援について、医療と教育の連携は、大阪ではどのようにされているのか教えてもらいたい。

A）場所によってそれぞれ異なるが、例えば堺市の場合、堺市教育委員会特別支援教育専門家チームがある。学校現場から支援の要請が教育委員会にきたら、専門家チームから医師と現場教員が状態を観察しに来て、対応している。もし、診断が必要だったら、その場で医師が保護者に伝えたり、教員が支援方法を伝えたりする。学校現場から、開業している医師に連絡を取って、学校の状態を伝えたりするようになってきている。徐々に、出来てきている状態なので、まだまだ、大阪もこれからだと思う。

Q）（小学校教員）アセスメントは大事だということを学んだが、病院への受診を拒否気味の保護者に、学校でちゃんとしたアセスメントもできない状態で、どのように勧めたらよいだろうか？

A）保護者が病院へ行くのを嫌がるのは自然なこと。担任と保護者がこの子をどうにかしてあげたいと相談している時に、「じゃあ、もう少し詳しく調べに行こうか？」という感覚で勧める。アセスメントをするのは、学校の校内委員会の仕事。コーディネーターがアセスメントをする。コーディネーターのアセスメントの力量はいろいろだが、教育相談でしっかり聞いてもらうことは誰にでもできること。それを取りまとめて、専門家に挙げていくことが重要。専門家チームは、各都道府県には設置しないといけないということになっているので、高知県にもあるはず。特別支援学校も、対応すべきことになっているので、そういうところに相談していく。担任としても、いろいろ動いていった上で、やっぱり病院へ行ってみましょうということになったら、保護者は納得するのでは。いきなり「病院へ行きませんか？」と言われたら、やっぱり拒否されるだろう。きちんと生い立ちから今までの生育歴を聞いて、状態も把握して、情報をしっかりまとめていくことが大切。



＜アンケート集計＞

１．参加者　人数・属性
〇参加者数　69 名
〇参加者内訳　　一般参加者　53 名　　正会員　16 名　　賛助会員　4 名
（１）保護者　　21 名
（２）教員　　21 名
（３）作業療法士　 2 名
（４）その他　　25 名（医師、臨床心理士、理学療法士、言語聴覚士、保育士、放課後児童クラブ職員、放課後等デイサービス職員、市保健所職員、など）

〇アンケート回収　　４９枚／　69 人中
（１）保護者　　15 名
（２）教員　　16 名
（３）作業療法士　　5 名
（４）その他　　12 名

２．感想
(1) 講演１
〇教育関係者に多く知ってもらいたい内容だった。
〇高知県ももっと支援が進んでほしい。
〇教育、医療のそれぞれの見方があり、それと同じ環境で話してもらって良かった。今後も開催してほしい。
〇教材をいくつも試しても子どもは混乱するという点で、じぶんがしてきたことで不安にさせてしまっていたと感じた。しっかりとアセスメントをして、その子にあった支援方法を見つけ、じっくりと関わっていきたい。
〇使い方のアプローチ、対応、事例等から、具体的に説明してもらえてとてもわかりやすかった。アセスメントをし、個々の応じた支援方法を見極めていくことの重大さを痛感。しかし引き出しが少ない分、分析力の未熟さを不安に感じるが、折角学んだことを無駄にしないように早速一人一人のアセスメントに取り組んでみようと思う。
〇様々な引き出しと根っこになる考え方、大変勉強になり、更に深く学びたいと興味を持った。
〇実例、ワークショップを含めて、細かいアセスメントの大切さをあらためて実感し、そこから子どもたちに役立つための解決支援に繋げるため自分たちの力を上げていかなければ…と思った。
〇各児童にあったサポート教材の使用をしていき、より良い教育に努めていきたいと思う。
〇アセスメントから支援に繋げるとき、どのツールや教材が適しているか判断することが難しいと感じた。アセスメント力やツールの性質をよく理解しておかないといけないと思った。
〇巡回相談等でアセスメントを求められる中で、子どもさんの根本の問題に自分が気づいていないことが沢山あると気づくことができた。
〇子どもの適切な実態把握が大切な事がよくわかったが、現場ではアセスメントの点で、知識が十分ないので正確に判断することが難しいと感じることが多い。
〇様々な教材の中から、その子にあった達成感を味わえるものを選定する力を養うことが大切であることを感じた。
〇子どもが思春期なので、なかなか親が関わるのを小さいころから比べると煙たがる。「遊びから始めよう」の年齢を過ぎてしまったので、何かしようとしてもこちらの意が子どもにわかって逃げられ

てしまう。今回の話を参考にしながら頑張ってみようと思うが、この年齢の子への対応のヒントがあったら教えてほしい。
○盛りだくさんだったが、具体例もありわかり易かった。アセスメントがいかに大事か、目からウロコのところもあり、年齢の高い我が子にはまずい対応をしてきて申し訳ないと振り返って思えることも多かった。
○取り組みを変えてみようと思った。本人に方法を教えることしかしておらず、何故を（弱いところ）自覚させてないことが続けてできない理由だったんだと思う。
○子どもとも１対１で向き合うことを大事にしていこうと思った。今までは外部と比較などをして、あせりなどもあったと思う。よく子どもの状態を見て支援方法を考えながらゆっくりやっていいます。
○まずは子どもの状態をしっかり掴むこと、大人は当たり前でも子どものとっては難しかったり、自分とは感じ方が違うという事をふまえた上で、支援方法を考えていかなければならない事を改めて感じた。
○漢字を覚えるのが苦手な我が子への支援方法のヒントを知ることができた。
○思い当たることばかりだった。良かれと思って色々と試していたがダメなのだ…と思った。
○子どもの状態を把握することが大事、「遊び」の要素を取り入れることが大事など、現在の教育のあり方を逆転の発想で捉えるものかと思います。興味深かった。（小学校　教員）
○具体例（実践例）がありよくわかった。　その子のつまずきの原因を追究したり、分析したりすることが、はじめは大切なのだと思った。
○具体的な児童の姿を思い浮かべながら、今後の支援を考えていくことができ　大変勉強になった。
○具体的でわかりやすかった。もっと話を聞きたかった。
○支援方法の引き出しを少しでも増やしたいと思い、学習会などに参加してきた。実際なかなか支援につなげていけてないのが現状です。先生の講演にもありましたが、しっかりアセスメントをしていないと、具体的な支援につながっていかないと改めて反省させられました。（中学校　教員）
○様々な課題を抱える子供たちに対する心構えから、具体的にどのような支援を行い、どのように変わっていったのかがわかりやすく、とても勉強になった。
○アセスメントをまずしっかりとやっていくということにはとても共感しました。そのためには時間がかかると思いますが、結果としてそちらからの方が近道になるというお話も同じように感じました。（高校　教員）
○多角的に子供を見ることの大切さを改めて学びました。事例がたくさんで興味深かった。（養護学校）
○テンポ良く子供さんの事例から特性や指導方法について学ぶ講演で、引き込まれました。改めてアセスメントの大切さを感じました。（保護者）
○診断は受けていませんが、現在教職員の方と検査を受けてみようかと話があがっています。
○今日の講義で子供に当てはまる事があり、あせらず見て上げなければ気づいたことでした。
○山田先生、大変ありがとうございました。大変お話がおもしろく参考にさせていただくことがたくさんありました。「算数がわからない」「漢字がかけない」ことは「何が問題？」と先生は考えられていますか？
○目からうろこです。すごく参考になりました。
○すごく楽しくわかりやすかった。もっと聞いていたいですね。勉強になりました。
○子供の状態を明らかにし、子供の特徴を明らかにし　因果関係を明らかにする。大切なことだし、重要なことだなととてもわかりやすく勉強になりました。子供一人一人としっかりと向き合い関わっていこうと改めて感じさせられました。
○子供との関わり方　どこが困難なのか　分析して取り組んでいくという、子供が成功を覚えていく様なやり方を見つけていく大切さがよくわかりました。
○すごい視点でみているなと思った。（言語聴覚士）

○もう少しゆっくりお話聞きたかったです。ＡＭのテーマ、ＰＭのテーマとも知りたい内容ですが、一日に両テーマというのは、話しても聞き手も少し難しいスケジュールでは？と思った。
（言語聴覚士）
○子供の視点に立ち困難さや　その要因を探っていくことの大切さを改めて感じました。時間が足らずお話されなかった部分を聞けず残念でした。　（放課後デイサービス）
○一人一人の子供の障害に　本当にいろいろな違いがあることや「アセスメント」の重要性を確認できました。具体的な事例、ためになりました。
○ＬＤボーダー（小４）の学習支援に携わる上で、どのようにすすめたら良いかを悩んでいました。大変、参考になりました。医療や学校との連携も必要だと強く感じました。（行政職員）
○具体的によく理解できました。

（２）講演２
○とてもわかりやくかった。
○OT の方からの専門的な方法を聞く機会がないので、OT 目線での支援方法など、良い話が聞けた。今後、様々な場面で活かしていきたい。
○冒頭で言っていた「人は無意識に行動している」との言葉を聞き、普段当たり前のようにしている行動を頑張ってやっているんだなと感じた。普段接している子ども達の姿を思い返すと宿題や食事の面で力が入っているなと思う所がある。しっかり視点を持ち、本人のしんどさをサポートできるようにしていきたい。
○視点を変えて、配慮する大切さを知った。
○難易度調整の話がとても参考になった。出来ればもっと詳しく聞きたかった。
○症例を通しての説明の方が理解しやすかった。
○理論の話が興味を持った。最後が駆け足になったのが残念だった。
○心理職なので、姿勢や巧緻性に関して知識不足なところもあるので、もっと勉強したり他職種と連携することが必要だと思う。
○療育の中で子どもに合わせた教材教具の工夫を行うことに日々難しさを感じていた。講演の中でたくさんの気付きがあった。
○普段当たり前にしている行動について未知な部分を知れたので良かった。「デイ」にも鉛筆などを握れない子がいるので、これから活かせれたらと思う。
○普段、不器用な子どもさんと関わる中で、箸操作について自助具をどう取り入れようか悩むときがある。ピンセット箸では普段箸と逆方向の運動学習になるとする勉強会もあり、先生はどのようなときに適応を考えているか教えてもらいたい。
（回答希望。アドレス→アンケート用紙にあり）
○ほんの少しの教具や教材の工夫で子ども達が楽になるということがよくわかった。
○何をするにも教えたり、押し付けたりするのではなく、子どもなので遊びの中で身につけさすことが大事だなと思った。
○分析をすることの難しさを感じた。自分たちが日常無意識に行っていることを掘り下げ、事例を考えていくことに繋がるように取り組みたい。
○子どもの座っている姿勢が悪かったり、何かできなかったりするとつい怒ってしまうことがある。今日の講演を聞いて、頑張っているのにできない状況にある子ども達に悪いことをしてしまったと感じた。これからは、どのような工夫をしてあげれば達成感が味わえるかという事を考えながら指導に当たりたい。
○児童の動作１つにしても様々な課題があることがわかった。丁寧な指導と、必要に応じた教具を考えたい。
○集中できない環境が部屋や周りだけでなく、本人自身の中にある。細かな子どもの捉え方を知り、

又じっくり子どもを、こっそりと観察してみようと思う。
○作業療法の視点やスキルが発達障害に役立つことがよくわかった。
○身近な地域の病院で子どもを見てくれる OT は殆どいないので、また相談先として開拓できたらいいなと思った。
○行動を運動レベルで困難ととらえる事に、実は出来ていないと感じた。自分にもあてはめ考えてみたい。
○親が思っている以上に教材や環境への工夫や配慮が必要だと感じた。
○支援する時には子どもの様子をしっかり観察しながら、無理のないスモールステップで支援していきたい。
○個別対応の仕方を教えてもらい助かった。（小学校　教員）
○自分ができていること、日常の動き働きを当たり前と捉えず、子供にとってどうかということを考えることで、支援の仕方がわかると思いました。
○困っている児童の側からの支援を考えることができ大変勉強になりました。
○感覚運動面の事についてお話を聞く機会がなかなかないので、とてもありがたかった。また、とても丁寧に資料を作ってくれていたのでありがたかった。
○普段聞くチャンスがない分野の方の話が聞けてよかった。
○午前の講演同様、子供のやりにくさ（困難さ）の背景をしっかりつか見て、どういった視点でどう教具を使っていったらよいか考えることができた。（中学校　教員）
○専門家ならではの　視点と知識からのお話で、また違う方向からの学習ができました。
○人は無意識にしていることが多い。何気なくしている動作は、実は非常に難しいことというのは改めてその大切さを感じられました。（保護者）
○大変、具体的に参考になりました。
○参考になりました。
○勉強になりました。
○「無意識にしていること」を　今まで一度も考えたことがなかったので、色々と感じるものがありました。当たり前のことが当たり前にできない人への理解についても考えさせられました。
○いろいろな角度から、子供と接していこうと思う、いい講演でした。
○細いところを捕らえているなと思った。（言語聴覚士）
○不器用さをどのような視点で分析していくのか、手がかりを勉強しました。（放課後デイサービス）
○箸や鉛筆など自分なりの持ち方や書き方を覚えてしまう前に、いろんな教材・教具があるんだなあとびっくりしました。少しの工夫で自分たちでも教具が作れることを知りました。（行政職員）
○作業療法士さんのお話は初めてでしたが、わかりやすく理解できた。幼児期の支援について詳しくお聞きすることができてよかった。

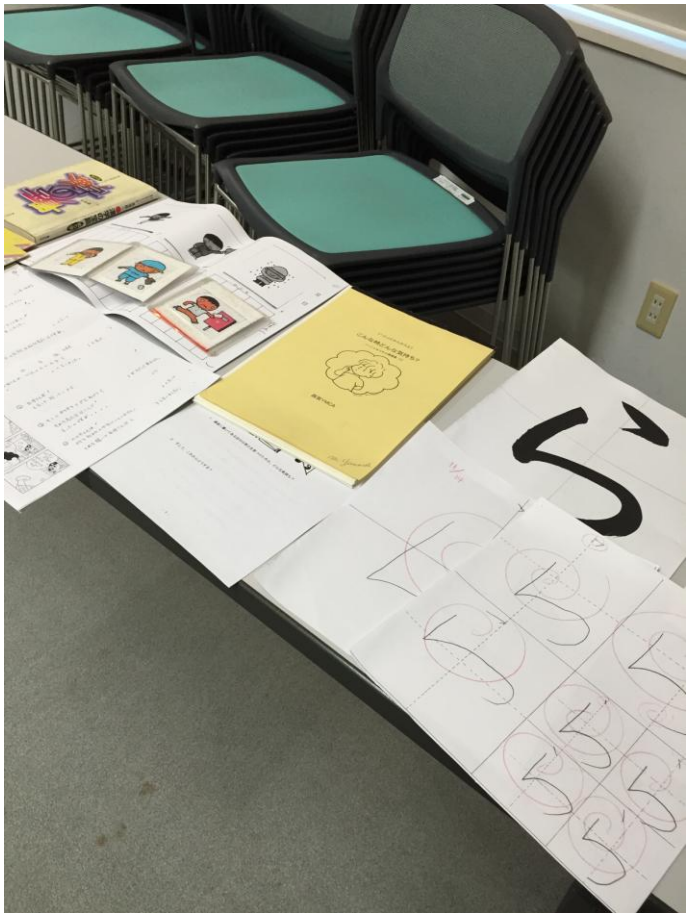
（3）ワークショップ
○二重構造での支援、なるほど！と思った。
○いろんな属性の方の視点、感じたこと、知識等を聞けて良かった。各角的な見方ができて良かった。
○周りの方が鋭い視点で子どもさんのしんどさに気付いている中、自分が気づけてない点が多く、不甲斐感じた。
○他業種の方とも接点が持てて良かった。もう少し時間が欲しかった。
○現場の声が間近で聞けてとても理解しやすかった。
○具体的な子どもの現状に沿って考える事が出来て勉強になった。ビデオ、プリントがあり大変わかりやすかった。
○問題点、良い点を抽出し、それに対する対策を考えることも大切だが、何に焦点をあててアプローチするかまでアセスメントする必要があるということの大切さを感じる事ができた。

○実際に考えることでどこに注目すべきか、何に困っているか、具体的にわかり知ることができたので、今後現場でも活かしていこうと思った。
○自分の子どもには、やっぱり生活の中で…なので、話にもあったように感情も入るので、みんなでワークをすることで落ち着いていろいろな面から考えられたなと思った。
○先生方のまとめ、さすがでした。トータルで見てその子の課題の中核が何か、ということの大事さがわかった。
○自分の子どもはもう高校生でだいぶ手遅れというか…もっと早い時期に適切な対応をしてやれば勉強への拒否感が少なくて済んだかと思う。興味のあることには頑張る力があるので、そこを大事に学校と連携してやっていきたい。
○自分が保護者なので、子どものアセスメントは難がある。皆で一緒にでき、大変勉強になり、気づきがあった。いろんな対応があることがわかった。
○皆様もいろいろ考え工夫もなさっているけれども、当たり前だが、どこか自信がなく迷っている部分もあるのだな…と感じた。1 対 1 対応でアセスメントとトレーニングに取り組みます。
○午前、午後の講義を含めてのワークショップだったので、色々なものが見えた。
○ベース（自分で考えさせる声がけや対応）と二重構造的な支援の仕方が役に立った。親は子どもが自立できるようにするには…を一番聞きたい。（小学校　教員）
○目の前で起こっているところの手立てではなく、根本の解決が必要だと思った。初めての参加でしたので「へええ、そうなのか。」ということがたくさんありました。
○知らずに子供に対応していてずいぶん子供に負担をかけてしまっていたのではないかと反省しました。子供を見る目が明日からちがってくると思います。
○各立場からの意見を聞くことができ、有意義な時間となりました。
○大変勉強になった。こういう研修を続けて、支援の力量をあげて行きたい。ケースを出して下さった方に感謝します。
○具体的から（根本）を見極める難しさを感じた。
○いろいろな立場の者が集まり、一つのテーマについて話合うことができてよかった。
○どのようにアセスメントしていけばいいのか勉強になった。（中学校　教員）
○普段あまり聞くことのない保護者の皆さんの生の声を聞く事ができ、とても勉強になりました。また機会があれば、ぜひ参加させて下さい。（保護者）
○色々な立場で話合う場面は、今後の参考となりました。
○教育者と　保護者の目線の違いを感じました。（放課後デイサービス）
○学校の宿題への取り組み方などで、どこが子供のつまづきなのかがわかるような、みなさんの意見や先生のアドバイスがすごく勉強になりました。　（行政）
○大変わかりやすかった。お二人の先生に感謝です。

３.「特別支援教育」「発達障害者支援法」に望まれることやその他ご意見・ご感想をお聞かせ下さい。

○一度では充分な理解や分析、支援法を出す作業をこなすことが難しいので、繰り返しの研修会開催を希望する。
○まだまだ学校、行政に理解もなく、苦戦されている親子さん、本人さんが沢山いるので、ご理解、ご協力の方をお願いしたい。
○より良い発展を願います。
○どの子どもも、平等に専門家の方の科学的な支援をして頂ける環境ができるといいなと思う。
○コーディネーターの先生の研修や責任の重さを自覚して欲しいと日々感じている。（勤務している学校で、日々苦しんでいる実態があるので）
○高知には専門的なアドバイスや支援方法を聞けるところが少ないと思う。大阪のように現場で子どもの対応に困ったとき、その子にあった具体的な指導法を教えて下さる方がいてほしい。

○子どもの良さを一人ひとりしっかりアセスメントして、しっかりその子にあった対応が見つかればいいなと思った。しっかり関わって、褒めていこうと思う。
○会やいろいろな情報を小さなころから誰もがいつでも知れる環境になればいいなと思う。高校からが義務教育の枠を外れるので、その壁の大きさを小さくしていく国づくりをしていってもらいたいと親としては思う。
○今の学校教育では中学校に入ることが大きなハードル。英語が入ってたちまちついていけなくなった。小学校では担任が理解してくれればスムーズにいくことが多いけれど、特性理解と適切な支援、さらに求められる学力、受験、本当にしんどかった。これからの子どもたちに、もう少し習熟度に合わせた学力でいい…とか、それに必要な人手をかける、高校でも支援ができるような体制が必要と思う。
○どこで誰に聞けばよいか分かりませんでした。子どもの事を親の目でまとめて文章にし、学校と教育現場に相談したいと思う。
○県や市町村と教育現場や親との全ての連携が取れる仕組みが、早く高知にもできればと思う。
○自覚のない当事者に、支援がたどり着いてもらう仕組みが必要だと思います。（小学校　教員）
○学校・保護者・療育にあたる人すべての連携のもとに特別支援教育をすすめて行きたいです。（保護者）
○「教育」「医療」「福祉」が一体となり、取り組みができたらいいですね。今後ますます社会的理解がすすめられることを期待しています。
○学校単位の取り組み方のばらつきがないように、専門の先生をつくるとか、勉強がうまくいかない事からの生活の乱れや、ストレスの発散になっている事を気づいていける学校にして欲しいと思う。（言語聴覚士）
○日々の臨床に追われる事も多く、お子様の全体的な問題・生活を見ての支援の重要性を再確認しました。（放課後デイサービス）
○学校の先生や市や県の担当の方とかのつながりが、もっとあればいいなと思う。（社会福祉協議会）
○社協として、どのように係わるのかを考える機会になります。また、研修に参加させていただきたく思います。



特定非営利活動法人
JPA LD
全国LD親の会

日本財団 The Nippon Foundation 助成事業

サポートツール全国キャラバン２０１４「教材教具研修会 in
高知は、日本財団からの助成金によって実施しました。